

令和 8 年度(2026 年) 道路標識点検診断士研修 修了試験問題

修了試験実施日：2026 年 9 月 11 日

修了試験実施場所：富士教育訓練センター

実施機関：一般社団法人全国道路標識・標示業協会

注意事項

- ① 携帯電話は電源を切りカバンの中に入れてください。
- ② 試験問題は係員の指示があるまで開けないでください。
- ③ 解答用紙に受講番号と氏名を明記してください。
- ④ 正解と思う番号を解答用紙に記入してください。
- ⑤ 試験開始から 30 分が経過するまで及び試験終了 10 分前から終了時刻までは退出することができません。
- ⑥ 質問、体調不良、退室希望等は静かに挙手をしてください。
- ⑦ 試験問題は終了後に持ち帰ることができます。
- ⑧ 試験終了の合図があったら筆記用具を置き係員の指示に従ってください。
- ⑨ 解答は試験終了後約 1 週間後に全標協ホームページに掲載します。
- ⑩ 合格発表は令和 8 年 10 月 9 日に全標協ホームページに掲載します。

一般社団法人全国道路標識・標示業協会

【建設業法】

問 1

建設業法に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 建設業の許可要件の専任技術者には、特定建設業許可の場合「監理技術者」相当の技術者、一般建設業許可の場合「主任技術者」相当の技術者の配置が必要である。
- ② 公共工事の場合、一般建設業者が下請け業者を用いる場合には、施工体制台帳・施工体系図を作成しなければならない。
- ③ 公共工事で、発注者から直接工事を請負い、5千万円以上(建築一式工事は8千万円以上)を下請け業者に施工を発注する場合は、主任技術者を置かなければならない。
- ④ 建設業許可の有効期限は、許可を受けてから5年間で、以降5年ごとの更新が必要である。

【安全衛生法】

問 2

建設現場における安全衛生管理体制に関する記述のうち、最も不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 事業者は、常時100人の労働者を使用する事業場では、安全委員会及び衛生委員会、又は安全衛生委員会を設けなければならない。
- ② 事業者は、常時50人の労働者を使用する事業場では、衛生管理者を選任しなければならない。
- ③ 事業者は、元請・協力業者合わせて常時50人以上の労働者が混在する現場では、安全衛生責任者を選任しなければならない。
- ④ 事業者は、常時10人の労働者を使用する事業場では、安全衛生推進者を選任しなければならない。

【道路法】

問 3

道路法に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 道路の点検は、トンネル、橋、その他の道路を構成する施設もしくは工作物又は道路の附属物について、適切な時期に、目視、その他の適切な方法により行う。
- ② 道路管理者は、道路の構造を保全し、又は交通の危険を防止するため、道路の通行を制限することができるが、禁止は都道府県公安委員会のみができる。
- ③ 道路標識、道路元標及び里程標は道路附属物である。
- ④ 道路管理者は、道路の構造を保全し、又は交通の安全と円滑を図るため、必要な場所に道路標識又は区画線を設けなければならない。

【道路交通法】

問 4

道路交通法に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 道路交通法は、「道路における危険を防止し、その他交通の安全と円滑を図り、及び道路の交通に起因する障害の防止に資すること」を目的としている。
- ② 道路交通法における「道路標識」の定義は、「道路の交通に関し、警戒、規制又は指示」を表示する標示板」をいう。
- ③ 規制標識は、道路管理者が道路法に基づいて設置するものと、都道府県公安委員会が道路交通法に基づいて設置するものがある。
- ④ 車両は、道路標識等によりその最高速度が指定されていない道路においては、政令(道路交通法施行令)で定める最高速度をこえる速度で進行してはならない。

【人間工学】

問 5

「人間工学」の基礎知識に関する次の記述のうち、不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 安全で使いやすいモノづくりにおいては、「ユーザーの身体特性、生理特性、心理特性に適合するようにモノをつくる」というアプローチが有効である。
- ② 各人間特性の具体例は、身体特性;身体寸法、動作速度、力、作業パフォーマンスなど、生理特性;筋肉系など各器官系の仕組みや機能、心理特性;五感、知能、心理感情などである。
- ③ 人間-機械システムモデルにおける人間の基本要素は「受容器(感覚器)」、「認知・判断」、「効果器」であり、機械の基本要素は「表示器」、「メカニズム」、「操作器」である。このうち人間工学の考えを適用する主な要素は「表示器」と「操作器」である。
- ④ 操作器の人間工学的改善・設計の際に活用する人間特性は、受容器(感覚器)の特性とそれに関わる脳機能の特性である。

問 6

下記に示す「人間工学」の基礎的活用の記述において、a～l に入る用語のうち不適切なものを一つ選びなさい。

◇室のドアの高さを設定する際に利用する身体寸法データは(a)であり、(b)を基準に設定する。ゆとりの加算は(c)。

◇公園の水飲み口の高さを設定する際に利用する身体寸法データは(d)であり、(e)を基準に設定する。ゆとりの加算は(f)。

◇共用椅子の座面幅を設定する際に利用する身体寸法データは(g)であり、(h)を基準に設定する。ゆとりの加算は(i)。

◇天井の高さを設定する際に利用する身体寸法データは(j)であり、(k)を基準に設定する。ゆとりの加算は(l)。

- ① a-身長 b-大きい人(例えば 95%ile) c-必要である
- ② d-立位時の口の高さ e-小さい人(例えば 5%ile) f-必要である
- ③ g-座位時のお尻幅 h-大きい人(例えば 95%ile) i-必要である
- ④ j-身長 k- 大きい人(例えば 95%ile) l-必要である

問 7

測光の基礎や色の表示の仕方に関する次の記述のうち、不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 光源に照らされた面に入る 1 m^2 当たり光量を照度(単位: $\text{lx} = \text{lm}/\text{m}^2$)といい、照らされる面の明るさを表す。照度は光源からの距離に反比例して減少し、距離が 2 倍離れると照度は $1/2$ になる。
- ② 視対象から発せられる 1 m^2 当たり光度を輝度(単位: cd/m^2)といい、視対象の見た目の明るさを表す。輝度は照度と視対象の光の反射率によって変わり、同じ照度条件下にある白色と黒色の輝度は白色が高くなる。
- ③ XYZ 表色系は、光の混色原理(加法混色)に基づいて色を表示する仕方であり、赤 R、緑 G、青 B に対応する三刺激値 X、Y、Z の混色比 x 、 y 、 z で色を表す。 $x+y+z=1$ になる。
- ④ マンセル表色系は、色あいを示す色相、明るさの度合いを示す明度、あざやかさの度合いを示す彩度の三属性の組合わせで色を表す。有彩色は「色相 明度/彩度」、無彩色は「N 明度」で表記される。

【生理学・心理学】

問 8

道路標識の視認に関わる生理・心理特性に関する次の記述のうち、不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 網膜の視細胞には、明るい環境下でよく働いて色を感知する赤錐体、緑錐体、青錐体と呼ばれる 3 種類の錐体細胞と、暗い環境下でよく働いて明暗を感知する桿体細胞の 2 種類がある。
- ② 薄暗い環境下では標識の赤色はくすみ、青色はあざやかに見える。これは明るさの低下にともない錐体細胞の吸光度が長波長(赤)から短波長(青)へシフトすることによって起こる現象である。
- ③ 白や黄と黒や紺の組合せのように、標識の図と背景(地)の色の彩度差を大きくすることによって標識の視認性や可読性を高めることができる。
- ④ 標識の誘目性を高めるには、赤や黄のような暖色で高彩度の色の活用が有効である。

【交通人間工学】

問 9

道路標識を設置する際の人間工学的な基本原則に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

- ① 標識の維持管理費を最小限に抑えることを最優先とし、運転者の視認性は二次的に考慮する。
- ② 運転手が走行中に短時間で発見し、その意味を理解して必要な行動に移せるよう設計する。
- ③ 標識の種類が多いほど情報提供能力が高まるため、可能な限り多く設置する。
- ④ 標識は道路管理者が確認しやすい位置に設置し、運転者の視線特性は考慮しない。

問 10

高齢運転者に配慮した標識設計に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

- ① 判断能力向上を前提として案内距離を短縮する。
- ② 認知・判断時間の長期化を考慮し、早めの情報提供を行う。
- ③ 若齢運転者と同様条件での設計を行う。
- ④ 文字サイズより情報量の増加を優先する。

問 11

ヒューマンエラーに関する記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

- ① ヒューマンエラーは、個人の不注意のみが原因で発生する。
- ② ヒューマンエラーは、完全に防止できるため設備対策は不要である。
- ③ 人間の能力や限界を考慮した設備設計によって発生確率を低減できる。
- ④ 熟練者には発生しないため教育訓練は不要である。

問 12

道路案内標識でピクトグラム(図記号)が多用される理由として
最も適切なものを一つ選びなさい。

- ① 文字情報より製作が高いからである。
- ② 利用者の言語能力に関係なく情報を伝達しやすいためである。
- ③ 夜間しか使用されないためである。
- ④ 図記号を使用することで標識の見た目を統一し、美観を保つことができるためである。

【標識令の改正】

問 13

令和5年に改正された「特定小型原動機付自転車」に関する
次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 「特定小型原動機付自転車」の通行方法が決められたことによって、これまでの原動機付自転車は、「一般原動機自転車」に名称が変更された。
- ② 「特定小型原動機付自転車」は、最高速度 6 km/h以下(最高速度表示灯が点滅)であれば「特例特定小型原動機付自転車」として歩道(自転車通行可の歩道)を通行できる。
- ③ 「原動機付自転車の右折方法(二段階及び小回り)」標識は、「特定小型原動機付自転車の右折方法(二段階及び小回り)」に変更になった。
- ④ 「自転車及び歩行者等専用(325 の 3)」標識は、「普通自転車等及び歩行者等専用」に変更になった。

問 14

令和 2 年に改正された標識令に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 重要物流道路における標示板の設置高さは、5.0mとすることが望ましい。
- ② 都道府県道又は市町村道以外に設置する案内標識及び警戒標識、それらに附置される補助標識の寸法は、地方自治体の条例で定める。
- ③ 方面及び方向等の案内標識の矢印については、白色以外の色とすることができる。白色以外の色とする場合は矢印の縁は白色とする。
- ④ 画像表示用装置(道路管理者が管理する道路情報装置を含む)に道路標識を表示することができる。

問 15

令和 6 年に改正された横断歩道に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 信号機の設置されていない横断歩道では、道路標示「横断歩道又は自転車横断帯あり」が設置されている場合、道路標識を省略できることになった。
- ② 交差点のすべての入り口に横断歩道が設けられている内側の横断歩道標識は、省略することができることになった。
- ③ 一時停止標識が設置されており、一時停止すべきことになっている車両に対面する横断歩道標識は省略することができることになった。
- ④ 横断歩道の白線を 45 cm から 90 cm されている設置間隔を 90 cm まで拡大できることになった。

【道路標識設置基準】

問 16

道路標識に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 道路標識は、標識令に規定されているもので、本標識及び補助標識に分類され、本標識の種類、設置場所、様式、設置者等が規定されている。
- ② 道路標識は、車両運転者に対して一定の様式化された方法で情報を提供している。
- ③ 道路標識は、道路における交通の安全と円滑な運行を図るとともに、道路構造を保全することを目的としている。
- ④ 道路標識のうち本標識とは、案内標識、警戒標識、規制標識及び指示標識である。

問 17

道路標識の設置方法に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 一般道路の歩道等に道路標識を設置する場合には、原則として歩車道境界と支柱及び標示板との間を 25 cm 以上離さなければならない。
- ② 片持式の標示板の設置高さは、車道の建築限界以上の空間の確保が必要であり、5.0 を標準とし、やむを得ない場合でも 4.7m 以上確保することが望ましい。
- ③ 標識令において、警戒標識(路側式)の設置高さは、設置箇所の路面から標識板中央までを 180 cm 以上としている。
- ④ 路側式の案内標識「著名地点(114-B)」は、歩行者の通行を妨げない場合、標示板の設置高さを 1.0m まで低くすることができる。

【案内標識】

問 18

案内標識に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 主要幹線道路とは、主として地方生活圏及び大都市圏内の骨格となるとともに、高速自動車国道を補完する道路である。
- ② 交差点付近の案内標識の整備をする場合は、対象道路及び交差道路の機能分類に着目する必要がある。
- ③ 案内標識「方面及び方向(108の2-A・B)」の設置位置は、原則交差点の手前300m以内の地点に設置される。
- ④ 補助幹線道路以上において「都府県(102-A)」は、設置することが望ましい標識である。

問 19

案内標識に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 主要幹線道路にて原則用いる目標地は重要地と主要地であり、第1ランクとして扱われる。
- ② 幹線道路にて原則用いる目標地は重要地と主要地であり、第2ランクとして扱われる。
- ③ 案内標識に用いる目標地名は、道路の分類によって地名のランクを使い分けている。
- ④ 「国道番号(118-A)」の案内は、重複区間でも途切れなく案内すべきである。

問 20

案内標識(地点案内)に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 「都府県(102-A)」の標識は、道路上の都府県境界を案内するもので、必要に応じて都府県章を表す記号を表示してもよい。
- ② 市町村の境界が河川であり、長大な橋の途中に設置することが不当である場合は、橋を通過した左側路端の見やすい位置に設置することが望ましい。
- ③ 「非常駐車帯(116の6)」を一般道に設置する場合の色彩として、地を青色、文字及び記号を白色とする。
- ④ 「著名地点(114-A・B)」には、必要に応じてピクトグラムを表示することができる。

【警戒標識】

問 21

警戒標識に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 片側2車線以上の道路において、車線数が減少し危険の生じる箇所の手前には、「車線数減少(211)」を設置する。
- ② 「すべりやすい(209)」は、路面が滑りやすいことが直接の原因で、交通事故が発生しているような箇所が設置の対象となり、高架橋の路面凍結箇所等がある。
- ③ 道路の縦断形状の予告「上り急勾配あり(212の3)」は、設計速度にかかわらず道路勾配が7%以上で設置する。
- ④ 「合流交通あり(210)」は、本線交通に対する流入の存在を予告するものであり、同形状の交差点の予告として用いることは誤りである。

【自動車専用道路】

問 22

高速道路(都市高速道路等を除く)の案内標識に関する次の記述のうち、最も不適切のものを一つ選びなさい。

- ① スマートインターチェンジの構造形式は、「本線直結型」と「休憩施設接続型」に大別される。
- ② 一般道に設置する高速道路の「入口の方向(103-A・B)」の大きさは、設置される道路の分類を考慮して大きさが決められる。
- ③ 高速道路本線に設置される出口の予告標識「方面及び出口の予告(110-A)」は、全ての箇所では片持式により設置される。
- ④ スマートインターチェンジの入口を一般道案内標識に追記し合体的に表示する場合には、従来の道路名称に併せて、地紫色・文字白色で「ETC専用」の表示を行う。

【標識の設計】

問 23

道路標識板の設計に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 案内標識の「方面及び方向(108の2-A)」で表示される地名の漢字の大きさは、設置される当該道路の設計速度により基本寸法が決められる。
- ② 案内標識の「国道番号(118-A)」の標示板の大きさは、表示される文字数の変化により基本寸法が異なる。
- ③ 警戒標識の拡大率が2倍の場合、1辺の長さは90cmとなる。
- ④ 案内標識の「方面及び方向(118の2-A)」に表示される文字の大きさは、設置される道路の車線数や交通量によって基本寸法の拡大率が異なることがある。

問 24

道路標識の設計に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 標識柱構造計算において、許容圧縮応力度は細長比による低減を考慮する。
- ② 鋼材の短期許容応力度は、長期許容応力度の数値を 2.0 倍で割り増した数値となる。
- ③ 標識柱構造計算の荷重条件において、路側式の風荷重は風速 40m/s が一般的である。
- ④ 一般道路で使用する大型標識用の基礎としては、直接基礎がある。

【規制・指示標識】

問 25

規制・指示標識の設置に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 市街地等で交差点が密に連続している区間において、右左折して規制区間に流入する車両から容易に視認することができる範囲に区間内標識が設置されているときは、交差点ごとに設置する区間内標識を適宜省略できる。
- ② 「歩行者等横断禁止(332)」及び「安全地帯(408)」は、原則として単独で設置する。
- ③ 道路の左側路端に本板を併設する場合、「横断歩道(407-A・B)」は配列順位にかかわらず最下端(左右に振り分けた場合はその左側)に配置するものとする。
- ④ 本板の配列順位において「歩行者専用(325の4)」は「大型貨物自動車等通行止め(305)」より先順位となる。

問 26

規制・指示標識の設置に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 一方通行の区間内にこれと交差する道路があり、交差道路に指定方向外等の規制により一方通行規制の状況が明らかな場合は、「一方通行(326)」の区間内標識を省略できる。
- ② 一時停止の設置場所において、直近に信号機の設置された交差点がある場合は、当該信号機に対面する方向の道路に「一時停止(330-A・B)」を設置する。
- ③ 「車両横断禁止(312)」の設置に当たり、交差点の右折禁止(指定方向外進行禁止)との混同を避けるため、交差点付近(おおむね 30m 手前の部分)には原則として設置しないものとする。
- ④ 「歩行者横断禁止(332)」の設置に当たり、横断歩道の位置を避けて設置するものとし「横断歩道を除く」等の補助板は附置しないこと。

問 27

規制・指示標識の設置に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 一方通行路の右側の路端に設置する「横断歩道(407-A・B)」には、記号が左向きのものを用いる。
- ② 「駐車可(403)」の規制を一方通行路の右側に指定する場合、原則として右側に歩道又は路側帯が設置されている道路とする。
- ③ 「時間制限駐車区間(318)」の設置に当たり、駐車できる時間は原則として 60 分以内とし、最長でも 120 分以内とする。
- ④ 区域を指定して交通の規制を行う場合に設置する区域内標識は、背板を用いた区域規制標識を設置する。

問 28

補助標識の表示の基準に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 車両の種類略称は、大型自動車は「大型」、大型乗用自動車以外の大型自動車は「大貨」とする。
- ② 時間の表示は24時間制によるものとし、原則として時間単位で行うものとする。
- ③ 一つの本標識について2以上の補助標識を用いる場合は、一部を除き上から「車両の種類」、「日・時間」、「距離・区域又は区間」の順で表示する。
- ④ 1.0倍の文字及び記号の規格について、文字を1段に表示する場合は、縦寸法を18cmとするが、矢印を1段に表示する場合は22cmとする。

【道路標識の施工管理】

問 29

道路標識の施工計画に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 施工計画書記載の施工管理計画とは、品質管理、工程管理、出来形管理、写真管理のことである。
- ② 共通仕様書とは、指定統一の事項であり、具体的な技術要件(品質管理基準・出来形管理基準・規格値、写真管理基準)を記載した仕様書である。
- ③ 施工計画とは、施工における工法を記載する計画であり、品質や工期など契約図書で要求されている事項を満たす必要がある。
- ④ 土木工事共通仕様書には、計画工程、現場組織、主要材料・機械、施工方法等の15項目を記載することとしている。

問 30

道路標識の基礎工に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 標識基礎の種類で、直接基礎は一般道で多く使われる大型標識の基礎である。
- ② 門型標識の測量において、スパンも大事であるが通り芯も大事である。
- ③ 土質調査では、スウェーデン式サウンディング試験が軟弱地盤に適した調査方法で、貫入不能とならない限り深さ 10m 以上でも計測可能である。
- ④ 基礎掘削において、歩道部の土質が崩落しやすい状態だったため、1.5m 未満の掘削だったが土止め支保工を設けて作業を行った。

問 31

大型標識工事の建て込みに関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 吊上げ作業で吊上げ重量を確認し、適切な選定をしてナイロンスリングを使用した。
- ② 大型標識の建て込みで、クレーン等と架空線の離隔は確認できたが、予防として防護管を設置した。
- ③ 吊上げ重量と作業半径を確認しクレーン選定を行った。
- ④ アンカーボルトとフランジボルトの締め付けを確認したため、アイマークを省略した。

【道路標識の検査】

問 32

道路標識の現場の検査において次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 鉄筋のかぶりの確保のために使用するコンクリートスペーサーは、既製品購入での使用であれば、打設するコンクリート強度より下回ってもよい。
- ② コンクリート打設において、外気温が 25℃以上だったが、練り混ぜ、運搬から打設完了までを 1.5 時間以内に行った。
- ③ コンクリート基礎の埋戻しにおいて、不可視部になると思い工事完了後に確認をするために写真撮影をし管理を行った。
- ④ 出来形管理において、規格値が無かったため監督員と協議の上設定し管理を行った。

【コンクリートの劣化・診断】

問 33

レディーミクストコンクリートの規格(JIS A 5308)で、普通コンクリートの品質管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 荷卸し地点でのコンクリートの空気量が 3.6%であったので、合格と判断した。
- ② 目標スランプ 12 cmのコンクリートの荷卸し地点でのスランプが 14.2 cmであったので、合格と判断した。
- ③ プラントでの練り混ぜ開始から2時間で運搬車が現場に到着したので、受入れには特に問題ないと判断した。
- ④ 強度試験に用いる供試体は、プラント出荷時に、運搬車から採取した試料で作製しても特に問題ないと判断した。

問 34

コンクリートの施工に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

- ① 冬季のコンクリート施工では、打設直後に凍結に見舞われても、その後十分な保温養生を行えば、特に問題はない。
- ② 夏季のコンクリート施工では、流動性が低下してこわばり始めたコンクリートでも、十分にバイブレータをかければ、特に問題はない。
- ③ 打設したコンクリートが強風で乾燥気味となり、一部にひび割れが見られたので、その部分を小手で均して消し、丁寧に仕上げた。
- ④ 打設場所が狭かったので、斜めシュートとバイブレータを用いてコンクリートを横に流し、丁寧に仕上げた。

問 35

コンクリートの耐久性に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選びなさい。

- ① コンクリートは、単位セメント量をあまり過大にしないほうが、自己収縮や水和熱によるひび割れを防止するなど耐久性向上に有利となる。
- ② 単位水量が $150\text{kg}/\text{m}^3$ のコンクリートと $170\text{kg}/\text{m}^3$ のコンクリートとでは、 $150\text{kg}/\text{m}^3$ のコンクリートのほうが乾燥収縮によるひび割れが生じにくい。
- ③ 鉄筋コンクリートは、中性化が進行しやすい表面付近に鉄筋を配置するように考慮し、かぶりをできるだけ小さくしたほうが耐久性向上に有利となる。
- ④ 水セメント比が 55% の鉄筋コンクリートと 65% の鉄筋コンクリートとでは、55% の鉄筋コンクリートのほうが内部の鉄筋のさびを生じにくい。

問 36

コンクリートの劣化に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

- ① 空気量が 2%のコンクリートと 5%のコンクリートとでは、2%のコンクリートのほうが凍結融解による劣化を生じやすい。
- ② 日当たりのよい南面のコンクリートと日当たりの悪い北面のコンクリートとでは、北面のコンクリートのほうが凍結融解による劣化を生じやすい。
- ③ コンクリートのコールドジョイントは、前に打ち込まれたコンクリートとの打ち重ね時間の間隔が短いことが一因で部材の劣化を生じやすい。
- ④ コンクリートの「豆板」とは、モルタル分と粗骨材が分離した部分をいい、バイブレータでの締め固め過ぎが一因で部材の劣化を生じやすい。

【スクリーニング調査】

問 37

支柱スクリーニング調査技術に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選びなさい。

- ① スクリーニングとは、選別あるいはふるい分けのことである。
- ② 門型標識は 10 年ごとに定期点検を行う必要がある。
- ③ 点検要領では、地際部を掘削・埋め戻ししなければならず、労力・時間・コスト等がかかり、さらには産業廃棄物も発生してしまう。
- ④ 路面境界部とは GL-40mm付近のことである。

問 38

点検要領の路面掘削に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 路面境界部が土砂の場合は、設置年月に関係なく掘削する。
- ② 路面境界部がコンクリートの場合は、支柱や基礎に異変がなければ掘削しない。
- ③ 路面境界部がアスファルトの場合は、設置年月に関係なく掘削する。
- ④ 掘削後の近接目視に代わり、非破壊検査による間接的な診断が可能である。

【構造便覧】

問 39

道路標識構造便覧の説明として、最も不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 道路標識に関する技術基準に適合する標準的方法などの参考情報が記載されている。
- ② 道路標識に関する政省令の技術基準について記載されている。
- ③ 構造安全性の要求水準については、従来の許容応力度設計体系とし、現在標準的と考えられる設計手法や構造例を多く記載している。
- ④ 道路標識の耐久性について配慮する内容が記載されている。

問 40

道路標識の構造設計に関する記述のうち、最も不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 荷重の種類には自重、風荷重があり、必要に応じて雪荷重、衝突荷重、地震の影響を適切に考慮する必要がある。
- ② 路側式複柱型の基礎には、鋼管を使用した単杭がある。
- ③ 標識柱の構造計算で風荷重を算定する場合、標示板の抗力係数は1.6を使用する。
- ④ 路側式単柱型の基礎には、単杭や縦型剛体基礎が多く使用される。

問 41

道路標識の構造設計に関する記述のうち、最も不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 路側式の支柱基部照査は、標示板が反射板の場合は自重による座屈の影響を考慮するほうがよい。
- ② 片持式の場合の横梁は、横梁取付部を支点とした片持梁として計算を行う。
- ③ 片持式の支柱と横梁の接合部において、フランジプレートの必要板厚は照査項目である。
- ④ 縦型剛体基礎の設計では、水平支持力の照査を行う。

問 42

道路標識に使用する材料に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 使用する材料には、強度、じん性、耐久性等の材質が確かで、厚さやそり等の形状寸法等の品質が確かなものを使用する。
- ② 標識柱に用いられる鋼管として、JIS に規定される一般構造用鋼管が使用される。
- ③ 反射式標示板の基板には、耐食性に優れたアルミニウム合金板が用いられ、裏面側には補強材が設けられる。
- ④ 反射材料のカプセルレンズ型は、屋外暴露 15 年間を基本原則として耐候性試験を行ったときに、色の変化、反射性能の低下に関して、それぞれの規定に適合しなければならないとされている。

問 43

道路標識の落下防止対策に関する記述のうち、最も不適切なもの一つを選びなさい。

- ① 落下防止対策としては、構造系の改善、フェールセーフ機能の設置等が考えられる。
- ② 構造系の改善例として、一部の部材が損傷しても標示板の落下に直結しないように取付構造を多重化する方法が考えられる。
- ③ 脱落防止対策として、ダブルナットよりスプリングワッシャーを使用するのが効果的である。
- ④ フェールセーフ機能の設置事例として、落下防止ワイヤによる標示板落下防止対策がある。

問 44

道路標識の維持管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものの一つ選びなさい。

- ① 維持管理を目的とした巡回時には、標示面反射材料等の著しい汚れや反射性能の低下に留意する必要がある。
- ② 標示板表示内容の更新方法としては、一般的に標示板自体を交換する方法、部分的に重ね貼りする方法がある。
- ③ アルミ平板等の補修板を重ね貼りする場合は、揺れの影響や経年劣化により接着強度が低下しないよう配慮し、アルミリベットにて固定するのが一般的である。
- ④ 経年により反射性能が劣化している標示板に補修板を重ね貼りする場合は、視認性が確保できるように対応することが重要となる。

【道路標識の点検】

問 45

道路標識の点検に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 道路標識の点検には、直轄国道用の門型標識等定期点検要領と小規模附属物点検要領、地方自治体用の附属物点検要領が定められている。
- ② 門型標識等定期点検要領では、健全性の診断の区分を施設単位ごとに4段階の評価で行う。
- ③ 小規模附属物点検要領では、路側式は基本使用年数を設定して定期的に更新を行うことで合理的な管理を目指す。
- ④ 単柱式標識の基本使用年数は、過去の腐食率と撤去率から30年が目安となる。

問 46

道路標識の点検箇所に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 路側式標識の主な点検箇所は、支柱地際部と柱キャップである。
- ② 片持式の弱点部は、支柱基部や横梁取付部及び開口部の形状であり、点検箇所となる。
- ③ 門型式の接続部におけるリブ先端付近は、溶接部及びリブ材の亀裂の有無を確認する必要がある。
- ④ 添架式の弱点部は、歩道橋取付のバンド部や溶接部が点検箇所となる。

【道路標識の診断】

問 47

過去の損傷事例に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 道路標識の過去の損傷事例は、標識柱の疲労亀裂や腐食があり、標識板については重ね貼りや吊下げ式の落下等が発生している。
- ② 隙間腐食は、露出柱脚で基礎とベースプレートの隙間に滞水してアンカーボルトが腐食する。
- ③ 設置年数が経過している標識板では、補強リブのスポット溶接部が剥離する場合がある。
- ④ 疲労亀裂による損傷事例は、標識柱の地際部で多く発生している。

問 48

道路標識の腐食に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 熔融亜鉛めっきの付着量は、母材の板厚により異なるため、母材の板厚が薄いものは耐久性が低下する。
- ② 腐食には、マイクロセル腐食とマクロセル腐食があり、マクロセル腐食は、局所的に腐食することから腐食速度が速くなる。
- ③ 異種金属接触腐食とは、異なる金属を電極とした局部電池の形成による物理的反応で生じる腐食である。
- ④ 門型標識のトラス部材などの薄板部では、孔食による断面欠損は部材健全性に支障が出る。

問 49

道路標識の変状内容と対策に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選びなさい。

- ① アンカーボルトが破断した場合は、あと施工アンカーにより破断したアンカーボルトの取替えが必要となる。
- ② T型アルミ等で、車両衝突の痕跡がなく亀裂ある場合には、取付本数を増やす必要がある。
- ③ 疲労亀裂の対策は、鋼管の板厚を 4.5mm 以上とし、細長比を 200 以下とすることが望ましい。
- ④ 基礎上面がアスファルトで覆われている場合は、アスファルトを取り除き腐食している箇所を補修した後、根巻きコンクリートを打設し、柱地際部に水勾配を設けることが望ましい。

問 50

道路標識の機能診断に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 道路標識の機能に関し、道路標識設置基準・同解説では「道路標識の構造上の状態のみならず、道路標識の視認性等の機能も適切に発揮できるよう配慮すること」と明記されている。
- ② 道路標識の整備水準については、対象道路が主要幹線道路であり、交差道路が補助幹線道路の場合には、予告標識を省略できる。
- ③ カプセルレンズ型の反射シートの劣化特性は、文字、矢印の貼付け部が剥がれていくのが特徴である。
- ④ 昼間における視認性実験の結果、案内標識で用いられる青色の色度範囲を外れると視認性、判読性ともに著しく低下する。

2026年度 道路標識点検診断士試験解答用紙

受講番号		氏 名	
------	--	-----	--

【建業法】	【安衛法】	【道路法】	【道交法】	【交通心理学・交通生理学・人間工学】			
問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3	3	2	2	4	2	1	3

【交通人間工学】	【標識令の改正・設置基準】	※問15には不適切な設問が 2問あり、①と④を正解と します。				
問9	問10		問11	問12	問13	問14
2	2	3	2	3	2	1・4

一般計 /15

【道路標識設置基準】	【案内・警戒標識/自動車専用道】					
問16	問17	問18	問19	問20	問21	問22
2	3	3	2	3	3	3

【道路標識の設計】	【規制・指示標識】				
問23	問24	問25	問26	問27	問28
2	2	3	2	4	4

【標識の施工】	【コンクリートの劣化・診断】						
問29	問30	問31	問32	問33	問34	問35	問36
2	3	4	1	3	3	3	1

【弾性波診断】	【構造便覧】						
問37	問38	問39	問40	問41	問42	問43	問44
2	3	2	3	1	4	3	3

【標識の点検・診断】	総合					
問45	問46	問47	問48	問49	問50	
1	3	4	3	1	3	

専門計 /35 /50